

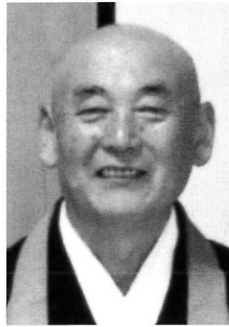
市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話(045)661-0166

新春を迎えて

横浜市仏教連合会
 会長 玄野孝善

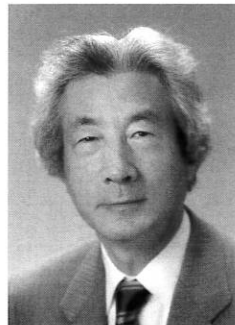
御尊台におかれましては、健やかに新春をお迎えあそばされたことと拝察申し上げます。今年の干支はご存知のように「寅」でございます。私も寅は寅ですが、どう



も罷を抜かれた寅になってしまったようです。寅はアジア、インドなどの森林に生息し、多くは単独で森林や水辺に住み、昼間は洞窟などで暮らし、主に夕方から活動をし、泳ぎも巧みに種々の獣や鳥を食料としています。

「虎の子」という言葉もありますが、これは、虎はその子供を非常に愛護することから、大切にして手放さないということで、秘蔵の埋蔵金を手放さないことの意味にも使われています。

さて、今年には横浜市仏教連合会再発足六十周年、横浜市釈尊奉讃会発足三十周年を迎えました。しかし、今の世相をみますと、汚職、事件、犯罪が後を断ちません。まさに私たちはこの混乱の社会の中



記念講演
 「思うように行かないのが人生—だから or それでも—」
 元内閣総理大臣 小泉純一郎氏

で、心が迷うばかりであります。私たち僧侶として、この混乱の世の中に一灯を灯し、少しでも明るく住み良い社会はできないものかと思索しております。ちょうど、仏教会、奉讃会の大きな節目に記念大会を開催し、僧侶が一体となつて、混乱の社会に一灯をもちたろうではありませんか。記念大会には、講師に元内閣総理大臣、宝樹院名誉総代でもあられる「小泉純一郎閣下」をお招きし、有意義なお話しを拝聴したいと思っております。

記念大会は本年六月五日(土)に鶴見大学付属中・高等学校講堂で開催致します。お檀家のみならずお誘いあわせて、どうぞお出掛けください。そして、大会成功のために「虎の子」の開放をぜひお願い致します。

記念大会実行委員会

- | | |
|---------|-------|
| 実行委員長 | 玄野 孝善 |
| 式典部長 | 和田 大雅 |
| 法要委員長 | 横山 正彦 |
| 副委員長 | 北見 秀明 |
| 詠讃歌委員長 | 程木 昭徳 |
| 講演委員長 | 美濃口久義 |
| ステージ委員長 | 西村 悦次 |
| 運営部長 | 市川 智彬 |
| 会場委員長 | 佐藤 功岳 |
| 接待委員長 | 榎本 昇道 |
| 連絡委員長 | 山本 元征 |
| 事務委員長 | 林田 眞成 |
| 救護委員長 | 三田 裕道 |
| 財務部長 | 山本 信行 |

勸募委員長

- | | |
|-------|-------|
| 勸募委員長 | 友繁 照純 |
| 副委員長 | 水谷 栄寛 |
| 副委員長 | 植田 清司 |
| 副委員長 | 橋下 賢明 |
| 副委員長 | 秋山 智謙 |
| 副委員長 | 守長 秀文 |
| 副委員長 | 河本 問文 |
| 副委員長 | 佐伯 隆義 |
| 副委員長 | 副田 俊光 |
| 副委員長 | 星野 英秀 |
| 副委員長 | 守長 尚文 |
| 副委員長 | 備前 恭忍 |
| 副委員長 | 関水 俊道 |
| 副委員長 | 齊藤 清紀 |
| 副委員長 | 亀野 哲也 |

記念大会要項

- 一 記念法要(曹洞宗方式)
 - 一 仏祖諷経・物故者追悼
 - 一 御詠歌(金剛・吉水・梅花)
 - 一 講演 小泉純一郎元総理
 - 一 独唱 佐伯葉子(ソプラノ)
 - 一 閉会のことは
- ※成願寺様より送迎バスあり。
 問合せ(三三二)六〇七見光寺・林田

横浜市仏教連合会60周年 記念大会
 横浜市釈尊奉讃会30周年

大会テーマ
昏迷に一燈を点ず

記念講演
 「思うように行かないのが人生—だから or それでも—」
 元内閣総理大臣 小泉純一郎氏
 金沢市宝樹院名誉総代

平成22年6月5日(土)

開場 午後0時30分 開式 午後2時
 会場 鶴見大学付属中学校・高等学校講堂
 主催 横浜市仏教連合会周年行事実行委員会
 ※入場には整理券が必要です。詳細は必ずにお知らせください。

秋の仏跡参拝旅行

愛知専門尼僧堂参拝

平成二十一年十一月十六日(七)日に、釈尊奉讃会と市仏連によります秋の仏跡参拝旅行が、愛知県尾張、三河方面を訪ねて行われました。

朝七時に横浜駅天理ビル前を出発して、東名高速道路を一路、名古屋に向けて快調に進みました。途中、上部に雪がかかった富士山が綺麗でした。

今回の第一の目的は、曹洞宗愛知専門尼僧堂(黄梅山正法寺)を訪れてご住職の青山俊董老師のお話をお伺いすることです。

名古屋市内千種区にあります当尼僧堂は、他地区にありました「第一尼学林」を昭和二十二年に移転再興したものです。周辺はビルが立ち並びますが、境内周辺は閑静なたたずまいで、いかにも尼僧堂らしい優しい雰囲気です。

青山老師は、昭和八年生まれ。十五歳で得度され、当尼僧堂、駒澤大学等での修学を経て、昭和五十一年より当尼僧堂堂長に就任され、現在に至っています。平成十六年には、仏教伝道功労賞を受賞され、国内はもとより世界各地で、巡回布教活動を続けられ、多くの著書を出版されています。

ご老師は、「出会いが人生の宝」と題し、約一時間にわたり静かな慈愛あふれる語り口で懇切に、今一時をどう生きるかについて説き明かしてくださいました。ご老師をはじめ、修業僧の皆さんも総出で、穏やかな笑顔で見送っていただき、心温まる思いで山門を後にしました。

この日の宿は、三河湾に浮かぶ竹島を眼下にしたすばらしい眺めの蒲郡温泉ホテル竹島。参加者共に一泊の懇親を深めました。

二日目の目的は、三ヶ根山に祀られている「殉国七士廟」への参拝です。ここは、先の第二次世界大戦における極東軍事裁判で、A級戦犯として昭和二十三年十二月二十三日に死刑執行された七名を祀った墓所です。

この墓所が完成したのは昭和十五年八月で、それまでは熱海市伊豆山の興重観音堂にあったそう



です。何せ死刑執行当時は、GHQの監視が厳しく、墓所はもちろん、遺骨を遺族が引き取ることも許されなかったといえます。遺骨を確保するには並々ならぬ苦労があったのでした。

この遺骨を遺族に、そして供養をという願いを援助されたのが、当時、茶毘に付された横浜市宮久保山火葬場前にある興禅寺住職、市川伊雄師です。伊雄師は、現市仏連副会長市川智彬師のご尊父であられます。そんなご縁でこの度の参拝には、智彬師とお兄様はじめ多くの興禅寺檀信徒の方々にご参加いただきました。

あいにくの雨の中、読経と献花、焼香で参拝を行い、移動のバスの中では市川師より、当時にまつわるお話をお伺いしました。いろいろな困難な諸事情を越えて、供養の尊さを貫かれた一念に、一同感

講演録

『出会いが人生の宝』

アンテナを立てる

昔から、出会いは人生の宝と申します。皆様の今日までのあゆみの中で、あの方に出会えた、この



動し拝聴いたしました。昼には岡崎での味噌煮込みうどんをいただき、八丁味噌工場見学、三河武士の館にて徳川家の歴史の足跡を見て帰路に就きました。

参加寺・長昌寺、興禅寺、見光寺、東泉寺、西福寺、長王寺、正楽寺、般若院。三十七名参加

青山俊董老師

教に出会えた、このお陰で今の私があると振り返られる方もあられるのではないのでしょうか。しかし、出会いが成立するためにはアンテナが立っていないと出会いは成立しません。

少し前に新人社員研修を頼まれて、一日研修を行いました。仏法というのは難しいものではなくて、たった一度の命の今をどう生きるかということです。はじめての青年達に私なりのわかりやすいお話しをしたのですが、終わったあと

の茶話会で感想を述べてくれたのですが、二十人のうちの十九人までが、足が痛かったことの他はほとんど聞こえていないのです。それを聞いたこの寺の修行僧たちが「幸せ過ぎて、アンテナが立っていないのですね」と言っていました。その中で、「一人だけ重病を患ったという青年がいました。『自分の病気の痛みと重ねて、今日のお話は心にしみました。』」と語ってくれました。これは一つの学びでございました。アンテナの役を務めるのは悲しみ、苦しみのですね。ほんとうは、逃げたい、避けたいと思っている悲しみ苦しみ、そこにアンテナは立ち、そこに人に出会い、言葉に出会い、教えるに出会うことができるのです。

日蓮聖人は、「病によって道心が起り候」とおっしゃったようですが、お釈迦様も医者も病人に諭えて、「病氣はつらいほど、またたなしに医者に行こうとし、医者の言うことを聞き薬を飲もうとする心がある」と言っていました。アンテナを上げておけば、いたる所から教えが聞こえたり人に出会うことができるのです。

生かされている命

北海道、知床半島の入り口に斜里という町があります。そこに鈴木あや子さんという浄土真宗のお寺の奥さんがおられました。乳癌が肺に転移して四十七歳で亡くなられました。この方は癌を通して沢山のことを学ばれたそうです。病のベッドの上で気づいたことは、金でも名誉でもない、経歴をどん



なに積んでもどうにもならない、ご主人やお子さんに代わってもらうこともできないということ。そして、大事なことは、心にどんな宝を頂戴しているかだけだということです。

木に年輪が出来るのは、寒い冬のある処で育った木で、常夏の国の木には年輪は刻まれないそうです。冬の寒さが厳しいほど、年輪が綺麗に刻まれます。それが木目となります。私の人生に年輪を作っていただけの時は、我が心に叶わないこと、いやなことを真っ直ぐに受け止めて越えたときなのです。

これこそが心の宝物です。年輪を刻ませて頂くとき、つまり、悲しいことやつらいことがある時は、積極的に受けて立っていいこうではないかと思うのです。悲しみ苦しみは、アンテナを立てるというほどけさまからの慈悲のプレゼントと頂戴しているではありませんか。

ご説法とは、お寺の本堂でお坊

様から聞くものだと思っていけれど、アンテナが立つてみると、至る所から説法が聞こえてくる。肺病で寝ているベッドの上が、如来様の説法の一等席であったことに気づかせてもらったと、あや子さんは述懐されています。一日の命をいただく重さと喜びを、癌を通して気づかせてもらったというあや子さんは、すばらしい詩を沢山残されて生涯を閉じられました。こんな詩があります。

癌は私の見直し人生の
ヨイドンの癌でした。
私、今、出発します

人生はやり直し出来ないけれど、見直し出直すことはできる。癌のお陰で命の重さに目覚めさせていただくことができた。死を見据える目が深いほど、一日の命を有り難く思い、この一日をどう生きるか良いのかも見えてくる。癌のお陰だということ。死は終着点ではなく出発点ということです。よし、出直そうではないかと言うわけです。

闇から光へ転ずる出会い(縁)

仏教は因果論といいますが、因と果だけでなく、その間に縁があるのです。悲しみ苦しむという原因のお陰であなたがある。しかし、間違った縁に出会うことによつて苦を重ねることになるのです。

お釈迦様はこの世の中に四種類の人がいると説いています。

「闇から闇へ行く人、闇から光へ行く人、光から闇へ行く人、光から光へ行く人」
この人生の悲しみや苦しみを、明

る光に変えることは可能です。反面、最初の闇はわずかでも、いつまでも引きずることで闇を何倍かに広げてしまふ人もいるかも知れません。この四タイプの人から、二つの学びができます。

一つは、「人生は変えていくことができる」ことです。授かりと思つたことでも諦めない、変えていくことが出来るからです。ただし、闇から光へ変えるのはいいですが、光から闇へ変えてはいけません。

もう一つは変えていくための「主人公は私じゃない」ということです。どこかに甘えたり、頼りにしたりするところがあつても、ギリギリ命は変わることはできない。私の人生は主人公の私じゃない。その私の今日、ただ今をどう生きるか。この二つの学びなのです。この一瞬をどう生きるかで、人生を開いていくことも出来るし、閉じることでもできるのです。

相田みつをさんの詩に、次のような詩があります。

瀬戸物と瀬戸物がぶつかりつ
こすると壊れてしまふ
どちらか柔らかければ大丈夫

柔らかい心を持ちましよう
凡夫の眼は人の欠点が見えるもの

です。仏の智慧を頂戴し仏の眼で見ると、我が非に気付かせてくれます。我が非に気付いているとき、争いはありません。私は結婚式のスピーチでは良くこの言葉を送ります。たまに会う分にはいいのですが、ずっと一緒に居ると相当に修行がいる訳です。でも、何百万

人の中からたった一人選んだ修行の相手と思えば文句はないでしょう。うざかしいほど修行させてもらったくない。

私の方が柔らかいと思つて相手の心が瀬戸物だと思つたら、それは瀬戸物の証拠です。柔らかい心同士ならば喧嘩にならないのですから。私が瀬戸物だったと気づかせていただく心が柔らかいのです。しかし、自分が瀬戸物であるということは自分では見えない。

光に照らされないと自分の欠点、間違いは気がつきません。縁とならざるべき出会いの光、教えの光で照らされることで、我が非に気付くことができるのです。



たった一度のやり直しの聞かない命の今を、一步一步、出会いに照らされながら、一日を悔いなく生きられたらいいなあとと思う訳でございます。(編集子要約)

一 涅槃会担当区予定

- 平成23年第36回 西区仏教会
- 平成24年第37回 磯子区仏教会
- 平成25年第38回 神奈川区仏教会

一 総会議長担当区

- 平成22年第37回 泉区・栄区
- 平成23年第38回 鶴見・神奈川区
- 平成24年第39回 西区・磯子区

一 県慰霊堂出仕当番表

- 平成22年4月5日 泉区
- 平成22年6月7日 瀬谷区
- 平成22年10月5日 都筑区
- 平成22年11月5日 緑・青葉区
- 平成23年4月 南・港南区
- 平成23年6月 神奈川区
- 平成23年10月 西区
- 平成23年11月 磯子区

神奈川県仏教会会長
天台宗観音寺住職

本 間 孝 康

〒221-0853 神奈川県三ツ沢東町八一二
電話三一一一五九六〇

横浜市仏教連合会顧問
法華宗陣門流勤行寺住職

都 築 哲 信

〒220-0002 西区南軽井沢九
電話三一一一三五五七

横浜市仏教連合会顧問
臨濟宗建長寺派松蔭寺住職

川 上 敬 吾

〒230-0077 鶴見区東寺尾一一八一一
電話五七一七一七〇一

横浜市仏教連合会会長
曹洞宗長昌寺住職

玄 野 孝 善

〒241-0822 旭区さちが丘五九
電話三九一一一三七九

横浜市仏教連合会副会長
高野山真言宗長王寺住職

山 本 信 行

〒224-0053 都筑区池辺町二八二七
電話九四一一一三六七

横浜市仏教連合会副会長
南・港南区仏教会長
曹洞宗興禪寺住職

市 川 智 彬

〒232-0007 南区清水ヶ丘二二五
電話二三一一七五九〇

横浜市釈尊奉讃会副会長
真言宗御室派龍華寺住職

和 田 大 雅

〒236-0028 金沢区洲崎町九一三一
電話七〇一一六七〇五

横浜市釈尊奉讃会副会長
栄区仏教会長
高野山真言宗般若院住職

星 野 英 秀

〒244-0842 栄区飯島町二一四九
電話八九一一一七〇一

横浜市仏教連合会会計担当
浄土宗浄念寺住職

橋 下 賢 明

〒234-0056 港南区野庭町六四三
電話八四二一七二八八

横浜市仏教連合会会計担当
日蓮宗妙光寺住職

秋 山 智 謙

〒246-0006 瀬谷区上瀬谷町八一三
電話三〇一一二九八九

横浜市仏教連合会監事
真言宗御室派寶珠院住職

佐 伯 隆 義

〒236-0051 金沢区富岡東五一八一一九
電話七七一一五〇一三

横浜市仏教連合会専務理事
浄土宗見光寺住職

林 田 眞 成

〒240-0004 保土ヶ谷区岩間町二一一四〇
電話三三一〇六〇七

<p>横浜市仏教連合会理事 神奈川区仏教会長 曹洞宗本覚寺住職</p> <p>守 長 尚 文</p> <p>〒221-0057 神奈川区高島台一―二 電話 三二二―〇一九一</p>	<p>横浜市仏教連合会理事 西区仏教会長 曹洞宗萬徳寺住職</p> <p>横 山 正 彦</p> <p>〒220-0031 西区宮崎町三二二 電話 二四二―四五三三</p>	<p>横浜市仏教連合会理事 保土ヶ谷・旭区仏教会長 曹洞宗随流院住職</p> <p>西 村 悦 次</p> <p>〒240-0045 保土ヶ谷区川島町五〇一 電話 三七一―三五七四</p>	<p>横浜市仏教連合会理事 磯子区仏教会長 高野山真言宗真照寺住職</p> <p>水 谷 栄 寛</p> <p>〒235-0016 磯子区磯子八―一四―一二 電話 七五三―五一四七</p>
<p>横浜市仏教連合会理事 港北区仏教会長 日蓮宗妙蓮寺住職</p> <p>山 本 玄 征</p> <p>〒246-0006 港北区菊名二―一―一五 電話 四三一―四四四一</p>	<p>横浜市仏教連合会理事 都筑区仏教会長 高野山真言宗福聚院住職</p> <p>齊 藤 清 記</p> <p>〒224-0053 都筑区池辺町二二九六 電話 九三一―一三六六</p>	<p>横浜市仏教連合会理事 緑・青葉区仏教会長 高野山真言宗萬藏寺住職</p> <p>河 本 冨 文</p> <p>〒226-0012 緑区上山二―一五―一二 電話 九三一―一五七三</p>	<p>横浜市仏教連合会理事 戸塚区仏教会長 曹洞宗雲林寺住職</p> <p>北 見 秀 明</p> <p>〒244-0002 戸塚区矢部町七八八 電話 八六一―一三二四</p>
<p>横浜市仏教連合会理事 瀬谷区仏教会長 臨濟宗建長寺派長天寺住職</p> <p>三 田 裕 道</p> <p>〒246-0013 瀬谷区相沢四―四―一 電話 三〇一―二六八八</p>	<p>横浜市仏教連合会報担当理事 曹洞宗東泉寺住職・泉区仏教会長</p> <p>関 水 俊 道</p> <p>〒245-0017 泉区下飯田町七四三 電話 八〇二―八〇九七</p> <p>真言宗豊山派西福寺住職</p> <p>備 前 恭 忍</p> <p>〒246-0037 瀬谷区橋戸三―二―一二 電話 三〇一―六一三四</p>	<p>横浜市仏教連合会顧問弁護士</p> <p>遠 藤 隆 也</p> <p>〒221-0022 (自 宅) 神奈川区白幡上町一八―三 電話 四二二―六一九二</p> <p>〒110-0015 (事務所) 台東区東上野二―一八―七 電話 〇三―八三二―二八一九</p>	<p>横浜市仏教連合会御用達 (株)ビーエヌ観光神奈川社長</p> <p>真 川 明</p> <p>〒240-0022 保土ヶ谷区西久保町一―四 公園ハイツ二―一―一八 電話 三三四―三四〇〇</p>

第三十五回涅槃会開催

於 天王院 鶴見区仏教会担当

第三十五回市仏連主催の釈尊涅槃会が鶴見区仏教会の当番で同区寺谷の天台宗天王院様を会場として、平成二十二年二月九日（火）に実施された。当日は気温二〇度に近くの暖陽気の晴天で檀信徒が一三〇名位、僧侶寺院関係者が六〇余名参集され、盛況であった。

光瑞山・正法寺・天王院は天安二年（八五八）慈覚大師により草基。元禄九年（一六九六）に焼亡するも延享三年（一七六四）伝海により再建。明治末年の「鶴見大火」により旧堂宇（現・鶴見中央二丁目）を焼失し、大正年間初頭に現在地に移転再建。山門のみ罹災を免れ現地に移築された。寺形は広大な描鉢状の窪地に本堂が在り、紅梅、白梅、緑鸚梅が植樹され、満開で精香に満ちた整容である。幼稚園も運営されている。年中行事は、節分護摩供、灌仏会、施餓鬼会、大師講大般若経転読会をそれぞれ時期に修する。

講演録

『涅槃会について』

大正大学講師

土屋 慈 恭 師

利礼文。焼香。回向。一同三礼。導師・式衆退堂。挨拶―市仏連会長・玄野孝善師。釈尊奉讃会会長・美濃口久義氏。泉仏副会長・都築哲信師。鶴見区仏教会長・榎本昇道師。講師紹介（生方常明師）。講演「涅槃会について」大正大学講師・天台宗観茂院住職、土屋慈恭先生。遺教経を主とした法話を頂戴した。「涅槃会」の小冊子（特に涅槃図についてとてもわかりやすい記述）、「テレホン法話百八話集」本、三色の涅槃まんじゅう供物が土産品。皆様がいい顔をしてくれました。



涅槃会には涅槃図を掲げてお参りしますが、それは宗派を問わないことです。この日のお参りには「佛遺教経」を唱えます。天台宗では日常はあまり用いませんが、禅宗では通夜葬儀などでも唱えたりするようです。

『佛遺教経』はお釈迦様が入滅する際に集まった弟子たちに説いたお経で、『遺経』と略したり「佛垂般涅槃略説教誡経」などという名前で呼ばれます。中国の後秦の時代に鳩摩羅什が訳したもので、とても判りやすく長く尊ばれてきました。内容は、經典の名前が表すとおり、お釈迦様が弟子たちに説いた最後の言葉を十七項目ぐらいにまとめたいわば遺言のような教えのものです。



「もし自分が遺言を今書くとして、死ぬ前に子供に残すとしたらどのような言葉かな」という視点からの解釈を行ってみたいと思います。

1. 戒律を守って敬いなさい。私が行なってきたように規則正しい生活をしなさいということ。
2. 五根（眼耳鼻舌身）を正しく制御して、五欲に流れる心を止めましょうということ。
3. 飲食は薬を飲むように、必要な量を効果的にいただき、他に迷惑をかけてはいけませんよ。
4. 昼は心がけて良いことをしなさいね。夜になっても続けましょう。到らない我が身でありながら、むやみに睡眠を貪るほどおろかなことで恥すべきことはありません。
5. もし意見が分かれても、怒ったり恨んだりしてはいけません。怒りの害は猛火のように広がるものです。
6. 自分の頭をなでて、奢り高ぶりの心を滅しましょう。
7. 人にこびてはいけませんよ。
8. 欲深い人は、利を求めることが多いゆえに苦しみもまた多い。欲を少なくして足ることを知りなさいね。
9. 足ることを知っていれば、様々な苦を逃れ、安穏な心持ちでいられますよ。
10. 安樂を求めようとすれば、静かな処に行つてみなさい。
11. 何事も頑張つて事を行えば、水が石を砕くように困難なことを乗り越えますよ。
12. 善い先生や先輩に頼ることも忘れては行けませんよ。
13. 坐禅のように、心を静かにさせ安定させることが悟りの近道になりますよ。
14. 正しい仏教の真実の智慧を身につけることは、老病死の海を渡る堅牢な船になります。
15. 実りのない口論は自らの心が

乱れるからやめましょう。
16. 心をつつとして怠けず、張りなさいよ。
以上がご説法の内容ですが、この場にいた弟子が質問して、「この話は、成道された時の四つの真理（四諦）の教えですね」と理解します。すなわち、
〔苦諦〕は、迷いのものは苦であるという真理
〔集諦〕は、苦の原因は誤解の集まり。誤つた考えや行いが集まってくるから苦があるという真理
〔滅諦〕は、集まつた苦を滅すればいいのだという真理
〔道諦〕は、滅するための八つの正しい行い（八正道）をすれば苦しみが消えるという真理
です。そして、繰り返して最後の言葉が説かれます。
お釈迦様の最後の言葉は、『佛遺教経』の他にも「涅槃経」や「長阿含経」などにも伝わっています。その中の有名な言葉に「自灯明・法灯明」があります。自らを灯火とし、お釈迦様の教えを灯火とし、



私がいなくなっても引き継いで行きたいという趣旨の教えです。自分が灯火：：という、では何を拝んでいるのかなと思いがちですが、実はここに特徴があります。お釈迦様をお手本にしながら、自分がしっかりと歩んで行くことが仏教の基本なのです。

天台宗でよく読む『法華経』の中に「如来寿命品」があります。その中に、お釈迦様がいなくなるのは方便で、涅槃を現するのであって、お弟子さんたちが精進してお釈迦様を目指すためのたとえかかれています。このようにお弟子さんにお言葉を残されて涅槃に入ら

提言

力を合わせて

時局対策委員 三浦公正

昨今お寺とお檀家との接触が希薄になってきたことは皆さんお気づきのことと思います。私の寺は横浜の旧市内にある関係で特にその傾向が顕著に見られます。市の校外にあるお寺も、新住民が増え、同じように希薄化を感じることが多いのではないのでしょうか。多くのお寺では、お檀家との接触は葬儀と法事の時だけ、という方向に流れていると思われま

れた訳です。そして、残された人はどうなるのだろうかという場面を描いているのが涅槃図なのです。さながら今のお通夜と一緒で、最後に会いたい方々が集まってこられたのだなと思います。これはとても東洋的です。お釈迦様の涅槃に心を寄せていただければ有り難いと思います。



りますと、先祖供養の出発点であるお葬式もやらない直葬が増えており、二割から三割にも達するという話もあります。しかし一歩引いて冷静に考えたとき世界に、ご葬儀もやらない民族がいるのでしょうか。宗教学者の方も、形はともかくご葬儀をやらぬ民族はいないだろうと言っておられます。すなわち世界を見渡したときご葬儀をやらぬという人は、よほど「まともではない」人達だということです。ところが日本では、「まとも」に分類される人達の中にも、ご葬儀を執り行わない人達が増えてきているのが問題なのです。葬送儀礼は民族の慣習のなかで一番変化しにくいものだ、といわ

れます。ところが日本では、いつの間にか「浄土」が「天国」になり、「導師」が「司式者」になってしまいました。どちらもキリスト教の言葉です。言葉が替われば当然イメージも変わります。それも他の宗教とのせめぎ合いからならなく、葬儀社という営利業社の主導で葬送儀礼が変化するのですから不思議です。また隔月刊の葬儀の雑誌「SOCI」を発行している碑文谷さんという方がおられます。ところが驚く無かれこの方はキリスト教徒なのです。ご葬儀の大部分が仏式で行われるなか、なぜ異教徒が葬儀に関する雑誌を発行しなければならぬのでしょうか。確かに言論の自由ではあるのですが、そこに仏式の葬儀を破壊しようというキリスト教徒の意図を感じるのには私の勘ぐり過ぎでしょうか。日本人の宗教心の唯一の現れである先祖供養だけはなんととしても残したい。これが無くなれば、日本人の宗教心は崩壊してしまいま

がいつの間にか「何でもいいや」になってしまったのです。ここにお釈迦様の萌芽が見えます。檀信徒だけではなく僧侶までも。僧侶の中には娘がキリスト教式の結婚式を挙げている方も、残念なことに、多くいます。これを知ったお檀家はさぞやガツカリすることでしょう。「お寺の息子さんは、キリスト教の学校は拙いでしょうね。」といってくるお檀家もまたいるのです。このお檀家の気持ちを裏切らないように、みんな頑張って張りようではありませんか。



区仏だより

● 港北区

来や七福神の説明等致しました。今期に入ってから、二十一年七月に、「第一回マイホー夢タウン港北ウォーク」を開催しました。これは、ウォーキングを通じて港北区の魅力を見ようというイベントで、鶴見川流域センター、小机城址、小机本法寺、小机雲松院、小机三会寺を巡り、このイベントには一五名もの一般参加者が集まりました。又、同十月には「第二回マイホー夢タウン港北ウォーク」で九十五名の参加者と共に慶応大学地下壕、諏訪神社などと共に、日吉大聖院、日吉金蔵寺を参拝し、変わりゆく港北の歴史を横浜シティガイド協会のガイドの説明を受けながら散策致しました。今後も、こういったイベントへの協賛などを通して地域の皆様とより良いコミュニケーションを築いて行きたいと考えております。

● 鶴見区
平成二十二年二月九日、第三十五回、横浜市仏教連合会主催・釈尊奉讃会協賛の涅槃会が、当区仏教会の担当として、天台宗の名刹、寺谷の天王院を会場に開催されました。約十年ぶりの当番なので、かなり戸惑うことばかり多く、当日まで不安の連続でした。ただし、各会員皆様の献身的なご支援を頂き、準備も滞りなく終え、当日を迎えることとなりました。当日は晴天に恵まれ、又、春のぽかぽか陽気の中、天王院様の檀信徒を始め、各寺院の方々等百五



十名の参加者で、本堂内は熱気に充ちていました。

法要は玄野孝善市仏連会長をお導師に仰ぎ、天台宗の各任職が式衆、他の会員が随喜して厳肅に執り行うことができました。

記念講演は、大正大学講師・逗子市観蔵院住職の土屋慈恭先生をお迎えし、「涅槃会について」、懇切丁寧な法話を熱心に拝聴いたしました。お釈迦様を敬慕する心が一段と強く感じられた貴重な一日となったことでしょう。

宝塔寺 榎本昇道

●金沢区

金沢区仏教会では、例年、所属三十の寺院・檀信徒により以下の教化活動及び行事を実施している。
1、四月釈尊降誕会（花まつり）64回目を迎え、（今年度は釜利谷自性院から禅林寺まで）約百名のお稚児様が衣装をまとい、檀信徒など数百名の参加者によって行列、法要を行いました。
2、古寺参拝研修
3、金沢仏教文化講演会
4、交通事故物故者追悼法要・交通安全大般若転読祈願法要
5、寺務研究会

平成二十年、二十一年と二回にわ

たり、県立金沢文庫において、同学芸員による「金沢の名所旧跡と寺社の歴史」について寺院関係者及び檀信徒参加で行いました。地元金沢の寺社を中心とした歴史を具体的に教えていただき、郷土への関心がいっそう深まる研究会となりました。

6、その他

機関紙「慈光」年二回発行、ハイチ地震被災者などへの募金活動及び寄付などを行っています。

●緑・青葉区

緑・青葉区連合仏教会（会長・萬藏寺・河本岡文）では、来る三月十二日、緑区小山町・観護寺（北田智昭住職）において普通救命講習研修会を行います。昨年開催時、感心が高く、二度目の開講となります。寺族を対象とした心肺蘇生中心の内容です。

恒例の花まつりは、来る三月二十七日、緑区長津田・大林寺（鈴木昭彦住職）において修行します。

法要・准仏の後、こどもたちに楽しんでもらえるよう「ひとみ座」人形劇と大道芸を予定しています。

●保土ヶ谷・旭区

●釈尊成道会

保土ヶ谷・旭区仏教会では、二月三日（木）午前十時より、旭区本村町浄土宗「三仏寺」様にて、奉讃会と合同で、「釈尊成道会」の法要を厳修致しました。式次第は左記の如くです。

- 一 入堂
- 一 開式の辞

- 一 三礼
- 一 献香・献乳・献花
- 一 啓白文
- 一 読経（観音普門品偈）
- 一 回向
- 一 三礼
- 一 挨拶
- 一 退堂

法要後
一 講演―講師―岡村隆二先生
演題―「気による心身統一」
一 閉式の辞

尚、総勢百三十九名のご参加を頂き、式後は客殿にて、恒例のケンチン汁で体を温めながら食事を頂戴し、盛会裡の内に「釈尊成道会」を終了致しました。



平成21年11月9日 竹寺にて

会と僧侶一体となつて「降誕会」、「春秋二回の日帰り旅行」、「成道会」、「歳末助け合い托鉢」を四十数年に亘り行い、檀信徒の布教・教化に務めております。

事務日誌

- 21.10.22 合同役員会（四川飯店）
- 21.11.16・17 秋の仏跡参拝
- 21.11.18 涅槃会打合せ（天王院）
- 21.11.30 小泉宅講演依頼
- 21.12.6 合同役員会（長昌寺）
- 21.12.14 理事会忘年会（華正楼）
- 21.12.14 実行委員会発足
- 22.1.8 涅槃会案内発送
- 22.1.20 会報原稿依頼発送
- 22.1.23 合同役員会（勸行寺）
- 22.2.5 実行委員会（勸行寺）
- 22.2.7 執行部会（勸行寺）
- 22.2.9 第35回涅槃会（天王院）
- 22.2.16 会場下見・打合わせ
- 22.2.19 チラン発送
- 22.3.3 記念大会案内状発送

お知らせ

- ◎春の仏跡参拝旅行
日時 平成22年6月21日（月）
訪問 大宮 東光寺（曹洞宗）で法話
菓鴨 高岩寺（とげぬき地蔵）
大宮 鉄道博物館
旅費 九五〇〇円 メ切5月15日
- ◎市仏連総会
日時 平成22年5月7日（金）
13時理事会、14時総会
西有寺
議長 泉区・栄区

編集後記

●第21回冬季五輪バンクーバー大会は2月12日に開幕し、十七日間にわたる熱戦が展開され、フィギュアスケートの浅田真央選手が銀、高橋大輔選手が銅、スピードスケートでは銀二つ、銅一つのメダルを獲得し、明るい喜びを与えてくれた。新聞のコラム紙が云く、「三月のパラリンピックの選手たちの至難の修行の成果に、重さ、貴さ、厳しさを思う。…そして、教訓歌の代行に思えた。」《古の道を開きても唱えてもわが行いにせずば甲斐なし》（説売新聞夕刊）
●2月21日の神奈川新聞の「団塊ナビ」に登場のエンディングデザイン・コンサルタント、柴田典子さん（59）の言葉。「葬儀にもっと関心を！。はやりの家族葬や直葬が見失ったものは？。私の葬儀には大勢に来てほしい。関係が良好でなかった人も来てくれるなら嬉しい。納得のいくお別れができないと心の立て直しが遅れます。」時局対策委員、三浦公正師の提言にもつながる。

●昨秋の青山老師を訪ねての尼僧堂参拝、三ヶ根山の殉国七士廟の墓参は、参加した多くの方々に感銘いただいた。奉讃会の存在意義を高める意味でも有意義であった。

●いよいよ周年行事に向けて、準備に忙しい時期となった。「昏迷に一燈を点す」のテーマのように世相に一燈を投ずるきっかけとなる大会としたいものだ。諸師のご協力を願いたい。